阿武隈川
緊急治水対策
プロジェクト

～ふりかえる水害の記憶と治水対策～

昭和61年８月洪水 × 令和元年東日本台風

巡回パネル展

昭和61年８月洪水から40年



旧梁川町出水状況（広瀬川合流点付近）

令和元年東日本台風から７年



郡山市出水状況（行合橋付近）
（国土地理院撮影 令和元年10月13日）

開催日：2026年 10月９日（金）～11月23日（月）

県内全29会場

展示会場		開催期間
福島河川国道事務所	福島河川国道事務所 1階 モニター展示	10月9日（金）～11月23日（月）
林野庁 福島森林管理署	白河支署 1階 ロビー モニター展示	10月9日（金）～11月23日（月）
鏡石町	イオンスーパーセンター鏡石店	10月9日（金）～10月20日（火）
福島県	県庁西庁舎２階県民ホール	10月9日（金）～10月19日（月）
郡山市	郡山駅 東西自由通路	10月9日（金）～10月20日（火）
棚倉町	棚倉町図書館（エントランス）	10月9日（金）～10月20日（火）
伊達市	梁川総合支所１階	10月9日（金）～10月28日（水）
国見町	道の駅国見あつかしの郷 道路情報休憩コーナー	10月9日（金）～10月28日（水）
三春ダム	三春ダム資料館２階	10月22日（木）～11月3日（火）
福島市	福島市役所１階 エントランス	10月22日（木）～11月3日（火）
棚倉町	棚倉町文化センター（ガレリア）	10月22日（木）～11月3日（火）
平田村	平田村保健生涯学習施設ハレスコ	10月22日（木）～11月3日（火）
鏡石町	鏡石町健康福祉センター「ほがらかん」	10月22日（木）～11月3日（火）
伊達市	伊達市役所 1階 シルクホール	10月30日（金）～11月3日（火）
本宮市	本宮駅 東西自由通路	10月30日（金）～11月8日（日）

展示会場		開催期間
郡山市	郡山市役所 本庁舎１階 市民ギャラリー	10月30日（金）～11月8日（日）
二本松市	二本松市役所 1階 市民ホール	11月5日（木）～11月15日（日）
棚倉町	棚倉町役場 1階 町民ホール	11月5日（木）～11月15日（日）
三春町	三春町役場 1階 多目的スペース	11月5日（木）～11月15日（日）
須賀川市	須賀川市役所 1階 みんなのスクエア	11月5日（木）～11月17日（火）
桑折町	桑折町役場 町民ホール	11月5日（木）～11月17日（火）
福島県	うすい百貨店 10階 プロムナード	11月10日（火）～11月15日（日）
白河市	白河市役所 1階 ロビー	11月10日（火）～11月23日（月）
福島地方気象台	福島第二地方合同庁舎 1階ロビーと6階エレベータホール	11月17日（火）～11月23日（月）
玉川村	たまかわ文化体育館	11月17日（火）～11月23日（月）
大玉村	農村環境改善センター２階	11月17日（火）～11月23日（月）
泉崎村	泉崎村役場内	11月17日（火）～11月23日（月）
須賀川市	須賀川市民交流センター tette	11月19日（木）～11月23日（月）
矢吹町	矢吹町複合施設KOKOTTO 1階 ラウンジ	11月19日（木）～11月23日（月）

※会場によっては、記載した開催期間内に閉館日等がある場合がありますので、個別にご確認ください。
※会場の都合により、開催期間が変更になる場合がありますので、個別にご確認ください。

主催：阿武隈川上流流域治水協議会

（構成員）福島市、郡山市、白河市、須賀川市、二本松市、田村市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、鏡石町、天栄村、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、三春町、棚倉町、東日本旅客鉄道株式会社、阿武隈急行株式会社、福島県、阿武隈土地改良調査管理事務所、福島森林管理署、福島地方気象台、森林整備センター、三春ダム管理所、摺上川ダム管理所、福島河川国道事務所

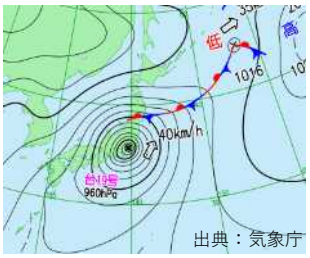
あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

令和元年東日本台風　記録的な豪雨

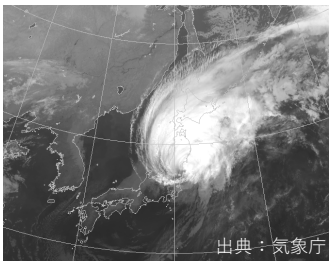
○令和元年東日本台風に伴う降雨では、阿武隈川上流域全域にわたり平均251mmの雨が激しく降り、戦後最大であった昭和61年（8.5洪水）や平成の大改修の契機となった平成10年（8.27洪水）を上回る雨量が観測された記録的な降雨であった。

天気図と気象衛星画像

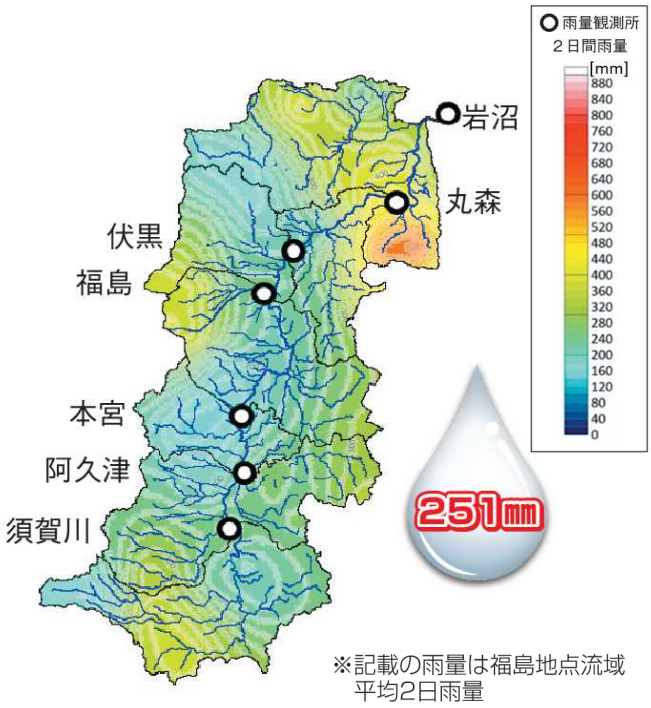
天気図（10月12日21時頃）



気象衛星画像（10月13日1時頃）

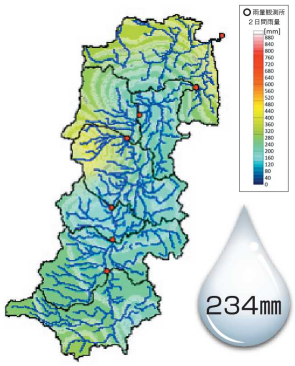


【令和元年東日本台風】

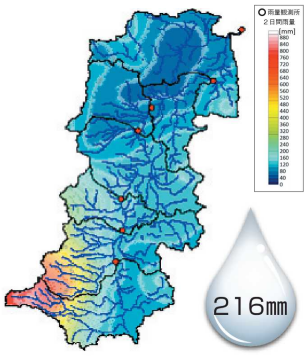


※記載の雨量は福島地点流域平均2日雨量

昭和61年8月洪水



平成10年8月洪水



令和元年東日本台風　全基準観測所で既往最高水位

○阿武隈川上流および荒川について、基準観測所全てで既往最高水位を観測。
○基準観測所全てではん濫危険水位を超過し、特に本宮・阿久津（郡山市）・須賀川地点においては、計画高水位を超過。

水位観測所		伏黒		福島		二本松		本宮		阿久津		須賀川		八木田	
計画高水位［m］		7.27		6.56		13.18		9.29		8.68		7.99		3.46	
既往水位［m］	1位	6.3		6.4		12.8		9.7		10.0		9.6		2.5	
	2位	S23	6.0	S61	5.9	H23	11.6	S16	9.6	H23	9.2	S16	9.0	H1	2.5
	3位	H14	5.3	H10	5.5	H14	11.5	H23	8.6	S61	8.8	H23	8.6	S57	2.0
計画高水位より…								44cm↑		133cm↑		162cm↑			

【本宮市】本宮上町地先（69.0k付近）



【郡山市】阿久津橋（84.0k付近）



●計画高水位とは？

川の中の水を安全に流すことができる最高水位です。
この水位を上回る洪水では、堤防が危険な状態になることを意味します。

越水箇所では…



河川の水が、計画高水位さらには堤防高を超え溢れました。

阿武隈川上流（国管理区間※）では、堤防決壊（1箇所）、越水（19箇所）、溢水（6箇所）

※令和元年東日本台風時点の国管理区間。

あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

令和元年東日本台風　沿川各地の浸水被害①

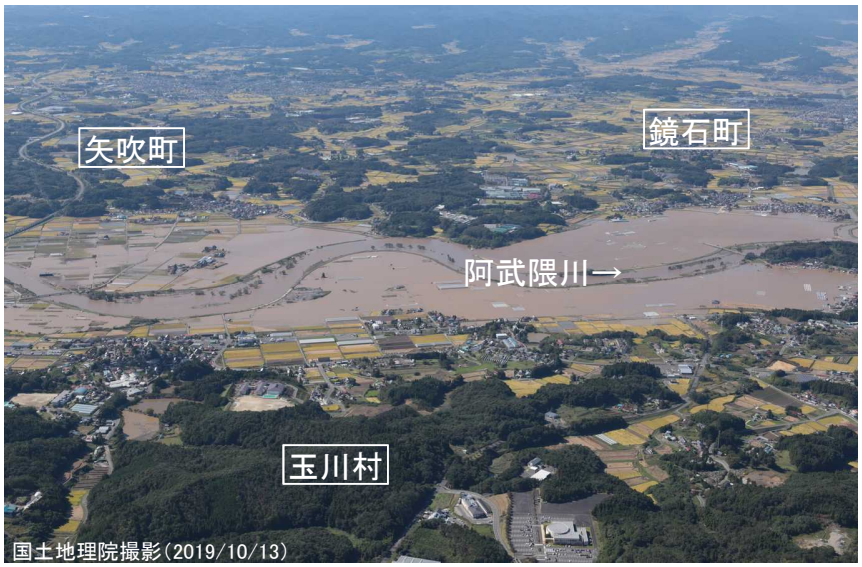
位置図



阿武隈川上流（国管理区間※）では、

約3,200haもの浸水被害が発生

※令和元年東日本台風時点の国管理区間。
※矢吹町、玉川村、鏡石町の以下写真の地域は国管理区間外であったが、令和2年7月に国管理区間に変更となった。



【矢吹町】



【鏡石町】



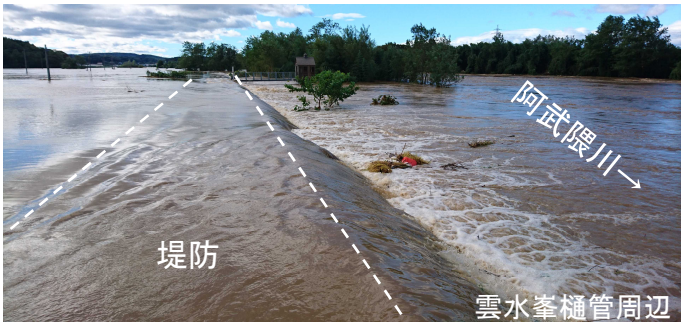
【玉川村】





【須賀川市】



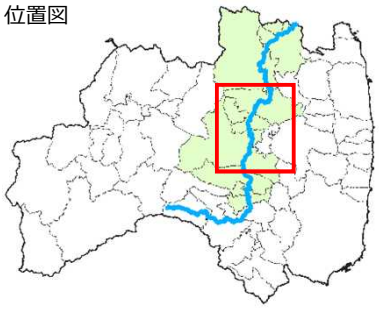




あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

令和元年東日本台風　沿川各地の浸水被害②

位置図



【郡山市】




水門町地内


若葉町地内

【本宮市】




本宮舘町地内



【二本松市】

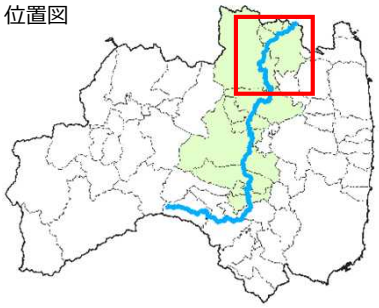




あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

令和元年東日本台風　沿川各地の浸水被害③

位置図



【福島市】







【伊達市】







【国見町】



【桑折町】



あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

○令和元年東日本台風に伴う洪水により、阿武隈川では多数の越水・溢水、堤防決壊等に加え、大規模な内水被害が発生するなど、流域全体で甚大な浸水被害となった。
○これを受けて、甚大な被害が発生した阿武隈川において、国、県、市町村にてとりまとめた「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を踏まえ、ハード・ソフトの対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策を行うことにより、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指す。

【ソフト対策】
②減災型都市計画の展開
→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進
例：浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開　など

【ソフト対策】
③地区単位・町内会単位での防災体制の構築
→的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進
例：支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良　など

連携

【ハード対策】
①河川における治水対策の推進
全体事業費：約２，６６７億円
→本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

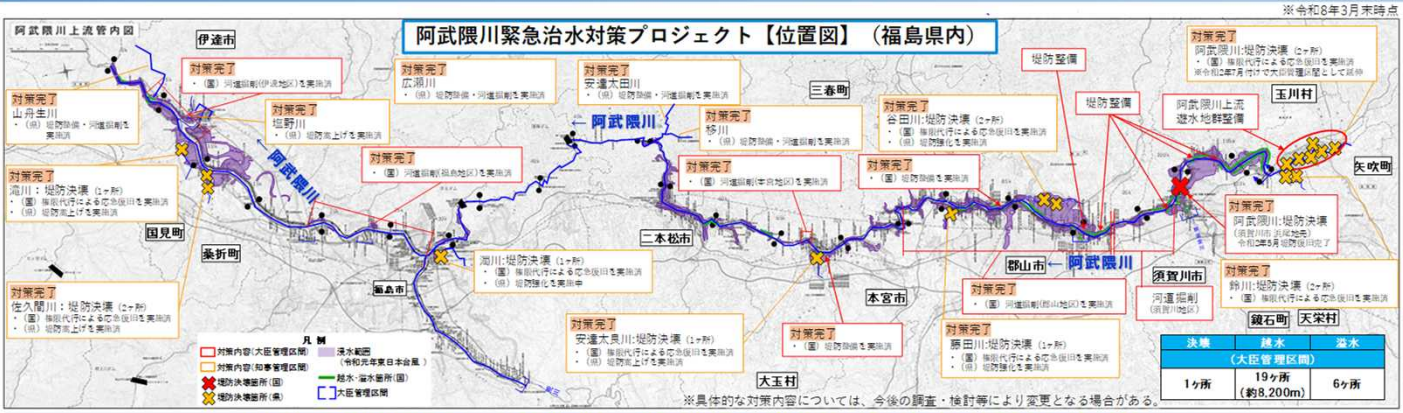
連携

【ソフト対策】
④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進
→本川合流部周辺における支川の減災対策の推進
例：本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置　など

【ソフト対策】
⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み
→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト（ハード対策の内容：福島県内）

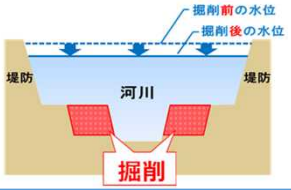
※令和8年3月末時点



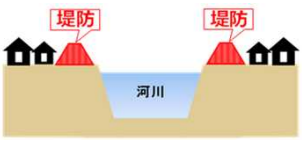
堤防整備等に加え、河道掘削、遊水地群整備により河川水位を低下させ、
令和元年東日本台風と同規模の洪水に対し堤防からの越水を回避※

※阿武隈川上流（国管理区間）における目標

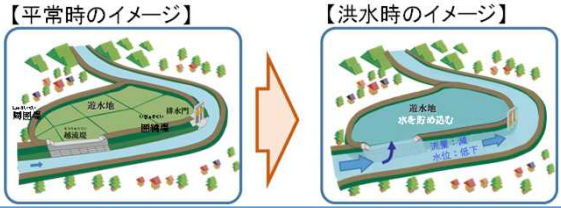
河道掘削
河道を掘ることで水を流れやすくして河川の水位を下げる



堤防整備
無堤部及び高さが不足している区間に堤防を整備し氾濫を防ぐ

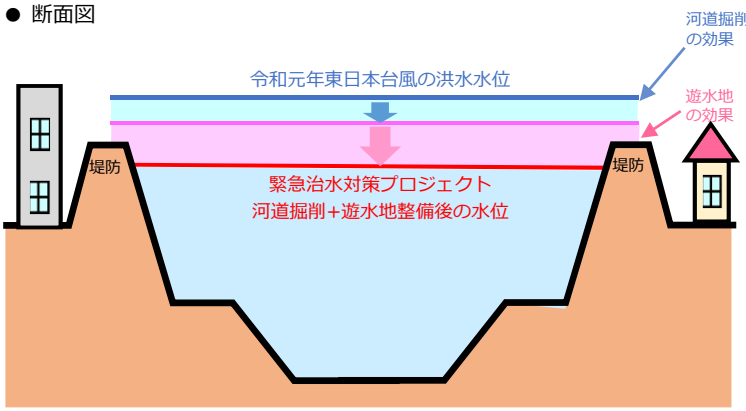


遊水地群の整備
遊水地群を整備し、洪水時に一時的に水を溜め込み、河川の水位を下げる



水位低減効果イメージ

● 断面図



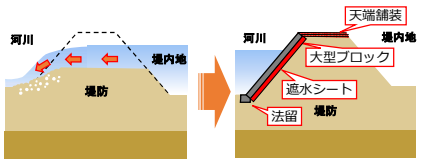
あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

被災した河川管理施設の復旧（国）

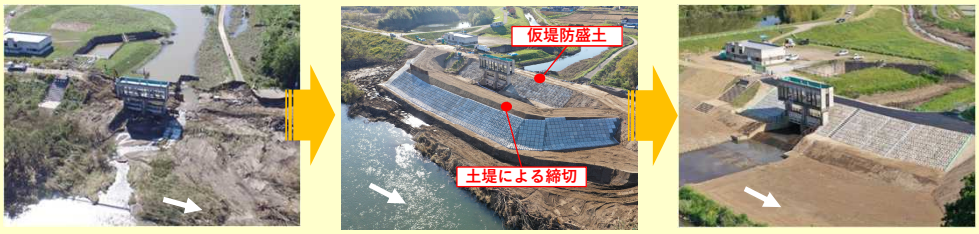
○令和元年東日本台風により被災した河川管理施設は、令和4年 9月30日をもって全80箇所の復旧が完了

〈阿武隈川上流直轄河川災害復旧事業〉
全体事業費　約121億円
工事期間　令和元年度～令和4年度
工事内容　堤防復旧、護岸工復旧、床固工復旧、漏水対策、樋門樋管等復旧　計80箇所

堤防復旧（堤防決壊）…堤内地の水位が上昇、天端舗装が流出し堤体洗堀が拡大したため、表面被覆工（大型ブロック張り、天端舗装）により壊れた堤防を元の状態に復旧する。

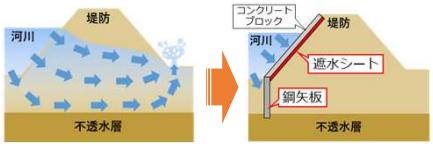


≪須賀川地区（堤防復旧）≫



施工前（令和元年10月）　緊急復旧完了（令和元年11月）　施工後（令和3年3月）

漏水対策…河川の水位が上昇すると、堤防内に水が浸透し、堤防が壊れやすくなるため、河川水の堤防への浸透や堤防内の水位上昇を抑制する。

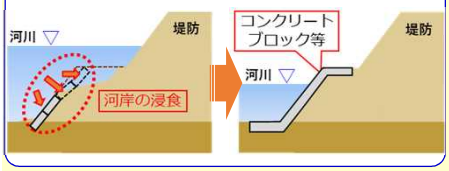


≪伊達地区（漏水対策）≫



施工前（令和2年7月）　工事中（令和3年2月）　施工後（令和3年7月）

護岸復旧…河川の水位が上昇、流速が増加し、護岸や堤防部が侵食されたため、壊れた護岸を復旧し、コンクリートブロック等を設置し侵食を抑制する。



≪福島地区（護岸復旧）≫



施工前（令和元年10月）　工事中（令和3年3月）　施工後（令和3年8月）

≪本宮地区（護岸復旧）≫



施工前（令和元年10月）　工事中（令和2年11月）　施工後（令和3年3月）

あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

堤防整備（国）

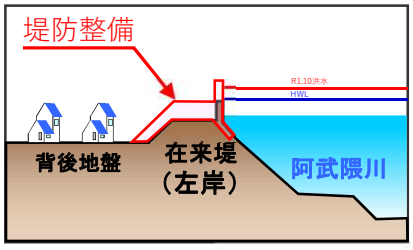
〇令和元年東日本台風では、堤防からの越水により浸水被害が発生。



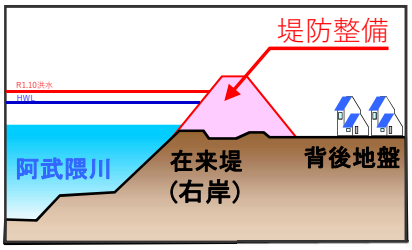


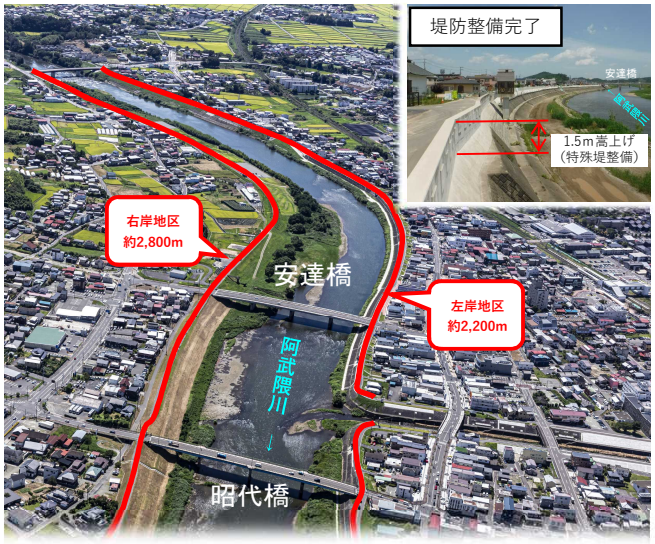
〇浸水被害軽減に向け、堤防嵩上げを実施。令和3年3月に本宮地区の整備が完成。令和3年5月に御代田地区下流工区の整備が完成。

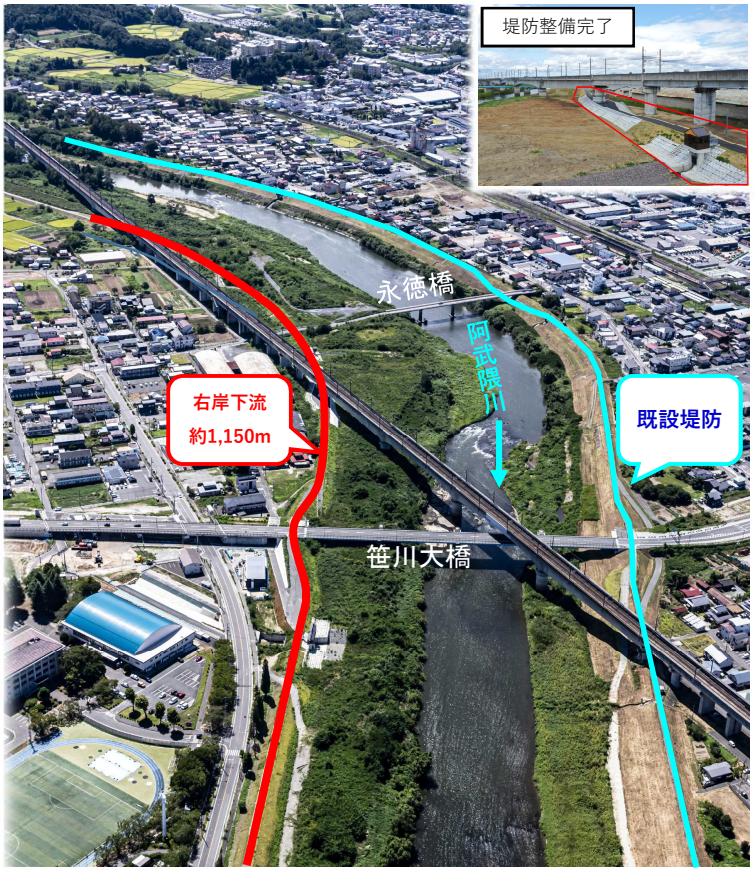
≪対策イメージ（左岸地区）≫



≪対策イメージ（御代田地区）≫









あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

堤防整備・橋梁架替・河道掘削　（国）

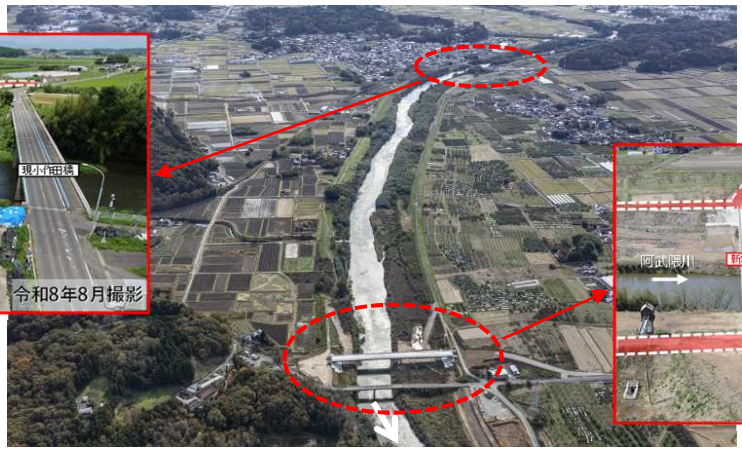
○浸水被害軽減に向け、福島県・須賀川市と国の共同事業により、「小作田橋（県）」、「雲水峯大橋（市）」の架け替え及び堤防の嵩上げに着手。
（小作田橋：令和5年7月着手、雲水峯大橋：令和4年8月着手）

≪対策イメージ≫





≪小作田地区≫



≪雲水峯地区≫



○浸水被害軽減に向け、河道を掘ることで水を流れやすくして、河川の水位を下げる対策を実施中。
○全体計画約230万㎥のうち、これまで郡山市街地から下流の約175万㎥（約8割）の掘削を完了※。※令和8年3月末時点
○令和7年度から郡山市街地より上流（須賀川地区）の掘削を実施し、完成を目指す。

≪対策イメージ≫



≪状況写真≫

①伊達地区（掘削完了 令和5年12月）



②福島地区（掘削完了 令和5年12月）



③本宮地区（掘削完了 令和3年10月）



④郡山地区（掘削完了 令和6年3月）



⑤須賀川地区（令和7年度から掘削着手）

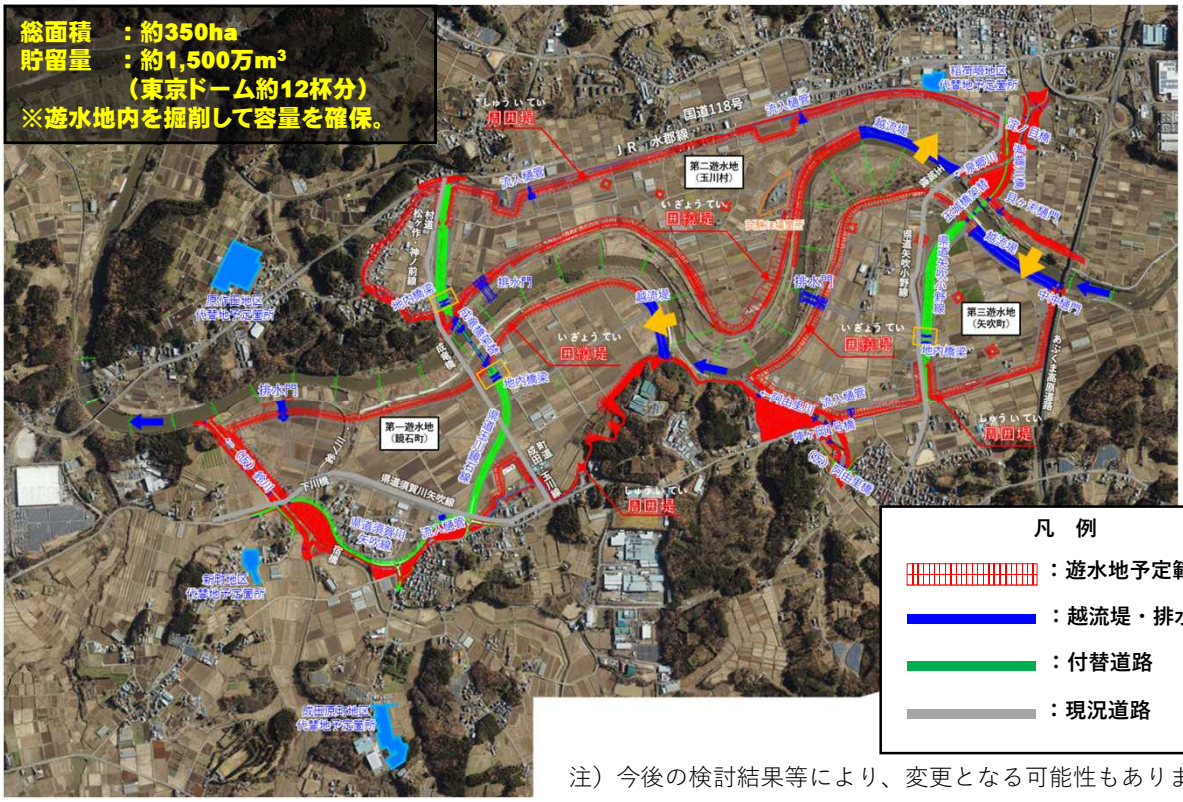


あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

阿武隈川上流遊水地群の整備

○令和元年東日本台風による甚大な被害を踏まえ、浸水被害軽減に向け、
阿武隈川上流（鏡石町・矢吹町・玉川村）に新たな遊水地群を整備中。

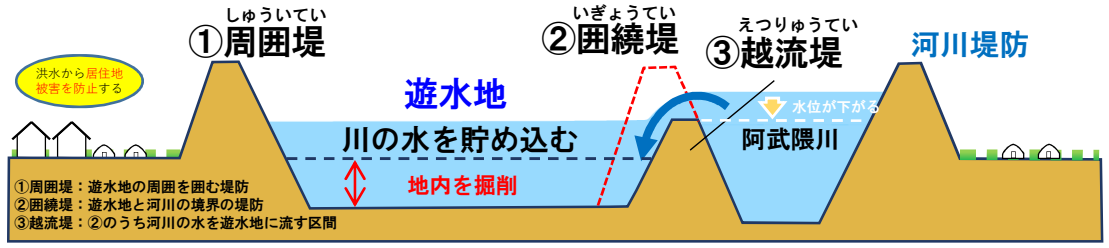
新たな遊水地群の整備



注）今後の検討結果等により、変更となる可能性もあります。

○遊水地は、洪水時に川の水を一時的に貯め込み、地先と下流側の水位を下げ、
浸水被害を軽減させる。
○阿武隈川上流遊水地群では、地権者の皆様から貴重な土地を提供いただいた上で地盤を
掘り下げ容量を確保し整備。

遊水地の役割



【平常時のイメージ】



【洪水時のイメージ】

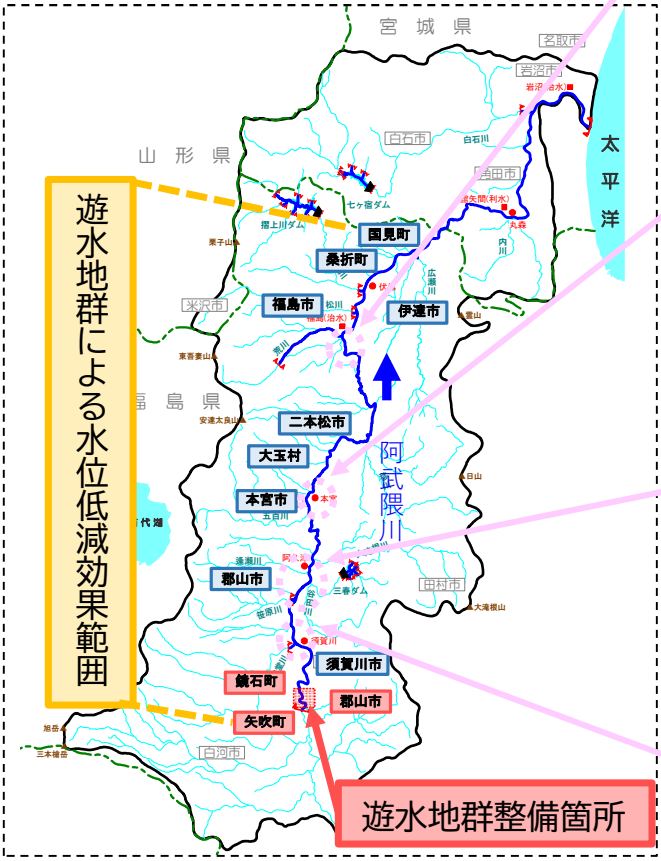


あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

阿武隈川上流遊水地群の整備

遊水地整備及び河道掘削により期待される効果

○「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」の治水対策を実施することにより、令和元年東日本台風と同規模の洪水が発生した場合、事業実施前と比べて『河道掘削と遊水地群整備』により水位を低下させ、堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の低減を図る。



福島市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果・・・**約 0．1m 水位低下**





本宮市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果・・・**約 0．5m 水位低下**





郡山市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果・・・**約 1．0m 水位低下**



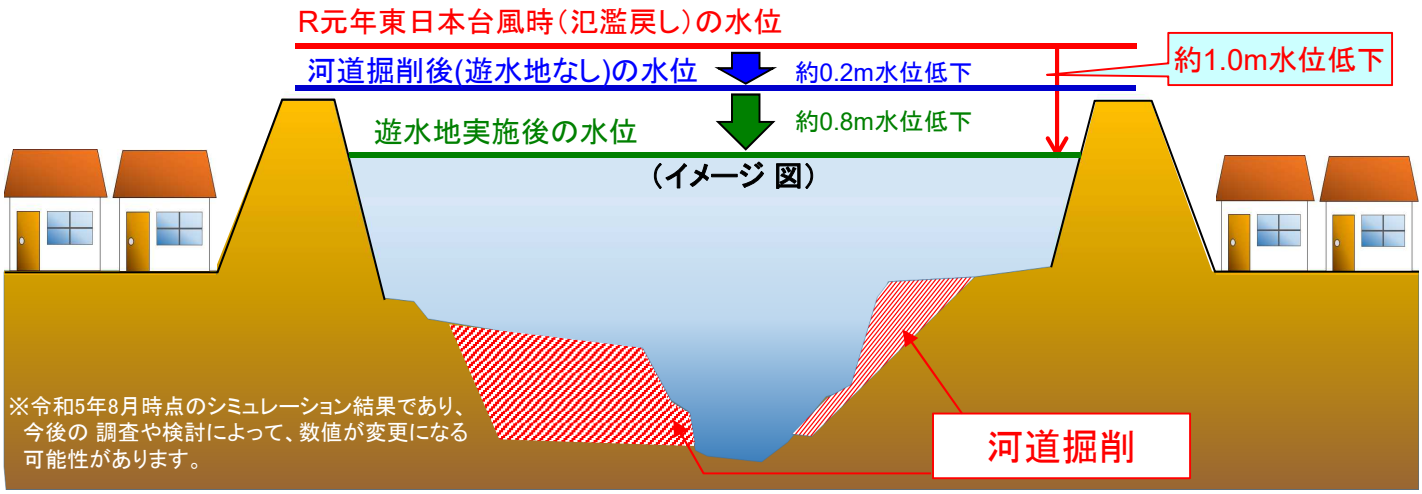


須賀川市 河道掘削＋遊水地群整備で期待される効果 **約 2．4m 水位低下**





【阿久津水位観測所地点（郡山市）の水位低減効果】



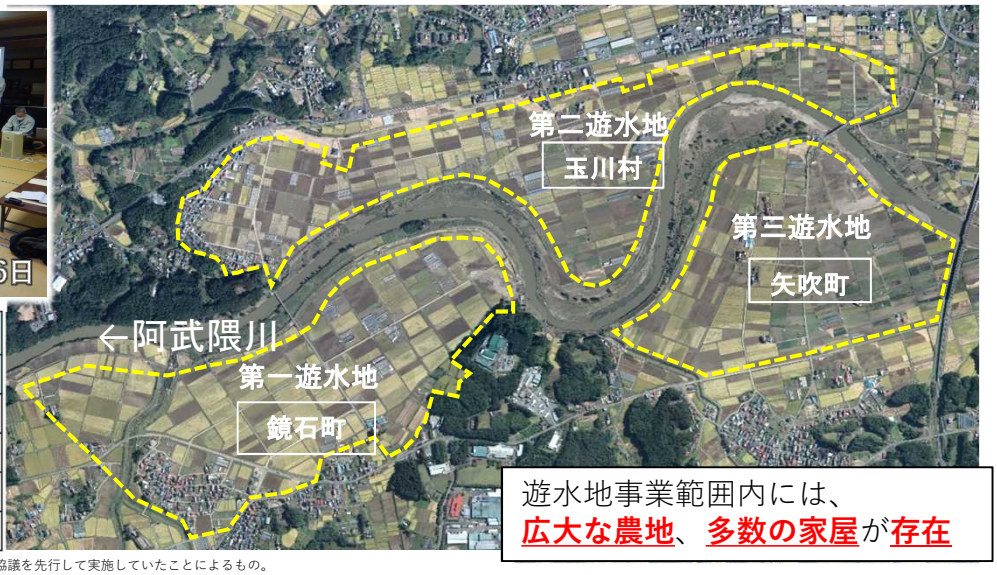
あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

阿武隈川上流遊水地群の整備

住民説明会・用地協議の実施状況

○令和２年度からこれまで９回の事業説明会を開催（参加者：延べ2,876人）。
○流域の浸水被害軽減に向け、この遊水地では、地権者の皆様から貴重な土地を提供いただいた上で地盤を掘り下げ容量を確保。
○そのため、家屋移転・土地の提供等をいただく皆様を含め、地域の方々のご理解・ご協力により、令和4年10月から用地協議に着手。
○令和15年度の完成を目指し、現在、地権者の皆様と用地協議中。





遊水地事業範囲内には、
広大な農地、多数の家屋が存在

用地協議の進捗状況

	面積（ha）	契約済み（令和８年8月末時点）	
		面積（ha）	割合
全体	350	236.27	67.51%
第１遊水地	130	104.59	80.45%
第２遊水地	120	53.12	44.27%
第３遊水地	100	78.56	78.56%

※各遊水地毎の、進捗状況の違いは農地のみ対象となる用地協議を先行して実施していたことによるもの。

代替地の整備について

○各移転対象者の生活再建に向け、特に移転家屋数の多い鏡石町及び玉川村に、それぞれ2箇所の集団移転先の代替地を国が整備するなど、移転対象者の負担軽減に努めています。
○これまで、対象者への意向確認や説明会等を行い、鏡石町については令和6年7月、玉川村については令和6年11月に全ての集団移転希望者との調整を完了し、代替地の区画割り・面積が確定。
○令和7年度から造成工事に着手しており、令和8年度完成予定。





あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

阿武隈川上流遊水地群の整備

遊水地内の利活用検討について

○上流遊水地群において、地域振興に資する持続可能な地内利活用の方向性等を検討し、地内利活用方針をとりまとめることを目的に、「阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会」を設置。

○利活用の検討にあたっては、全国の遊水地や河川敷地において、快適でにぎわいのある水辺空間が創出されている様々な利活用事例を基に、民間との連携も含めた検討を進めている。



かわまちづくり検討イメージ
出典：かわまちづくり計画策定の手引き（国土交通省水管理・国土保全局）


かわまち大賞
宮城県名取市閖上地区
出典：国土交通省HP


乙な駅たまかわ
福島県玉川村乙字地区



来場者10万人達成のセレモニー
出典：広報たまかわ


ロードレース


BMXレース


マラソン・駅伝レース


野球・サッカー


パークゴルフ


ラジコン飛行場


キャンプ場


舞踏


花火大会



イベント会場（コンサート）


地元農産物のマルシェ


食フェス

遊水地利活用の事例

画像出典：国土交通省水管理・国土保全局治水課　遊水地整備＆利活用事例集
一般社団法人全日本BMX連盟　HP　より

遊水地内の農地利用検討について

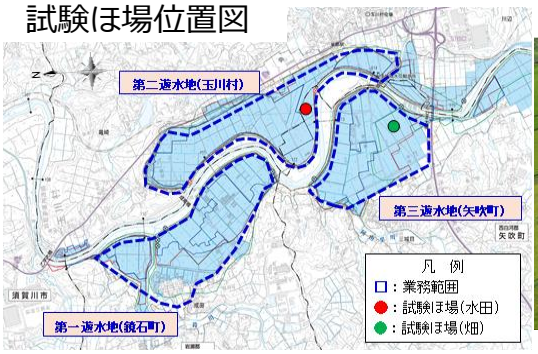
○掘り下げた遊水地内の農地利用の技術的な実現可能性を検証するため、試験ほ場による実証実験に取り組んでいる。

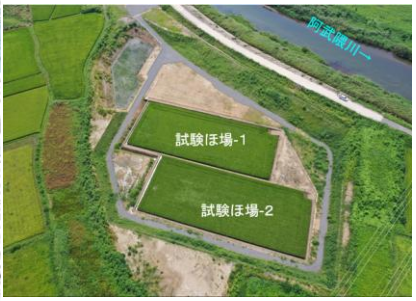
○令和7年度は、第二遊水地の水田試験ほ場2面（42a）において、収量約2.5t（600kg/10a）を確保し、福島県中通り平均（540kg/10a）を上回ったほか、品質については、食味検査の鑑定値は78～81点（やや良）であった。

○令和8年度は、5月15日に作付けを実施し、3カ年計画の2年目として継続検証を行っている。

○令和8年8月に、第三遊水地に畑の試験ほ場を設置し、ダイコン、ネギ、ブロッコリーを移植した。収穫は12月頃を予定している。

試験ほ場位置図

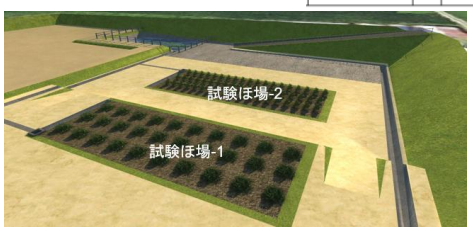




検体		食味鑑定団					
検体名	種類	食味鑑定値（点）	外観評価（点）	硬さ評価（点）	粘り評価（点）	総合評価（点）	チャートグラフ
試験ほ場-1 白米 2025年 福島県産 コシヒカリ	精米	81	8.6	4.2	9.3	8.5	
試験ほ場-2 白米 2025年 福島県産 コシヒカリ	精米	78	8.1	4.1	9.2	8.6	
対照ほ場 白米 2025年 福島県産 コシヒカリ	精米	90	9.5	3.4	9.1	9.2	

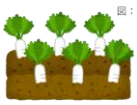

田植え（R8.5）


農研機構による技術支援



試験ほ場面積：約３ａ（300m2）


図：ブロッコリー

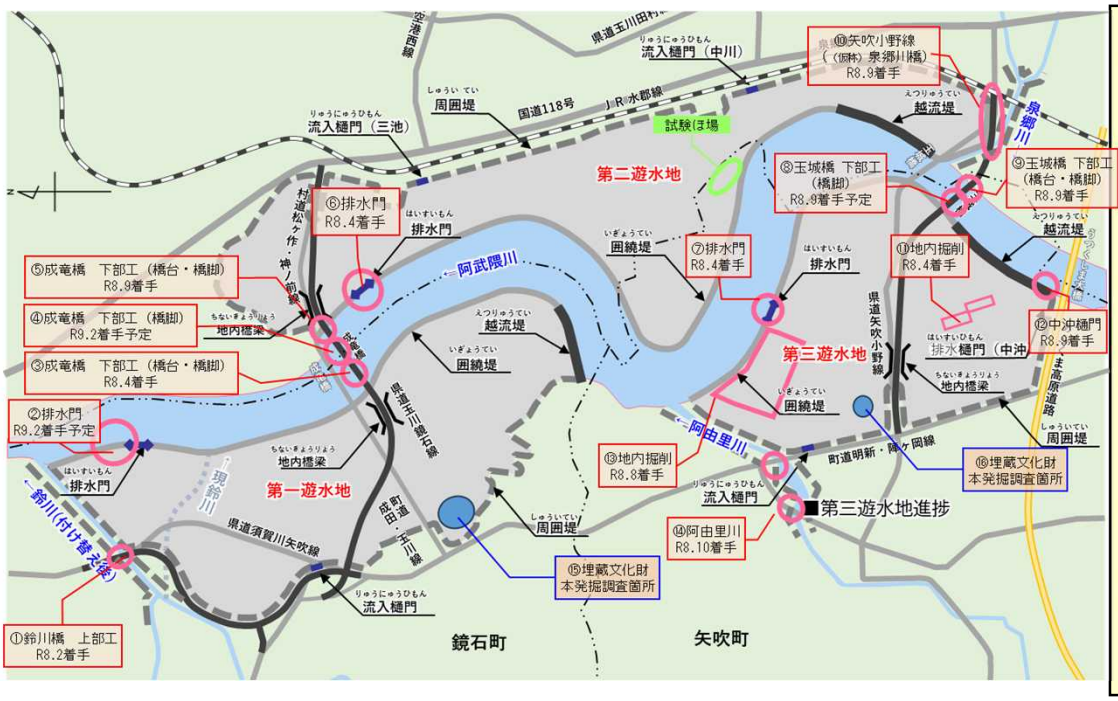

図：ダイコン


図：ネギ

あぶくまがわ
緊急治水対策
プロジェクト

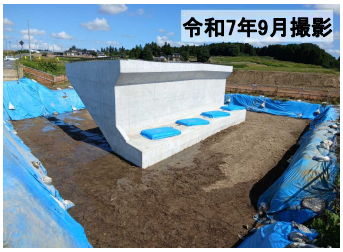
阿武隈川上流遊水地群の整備

○令和8年には、鈴川橋上部工のほか、第二遊水地および第三遊水地の排水門工事等に着手。



令和８年度着手工事（予定）

① 鈴川橋 上部工
② 第一遊水地 排水門
③ 成竜橋 下部工（橋台・橋脚）
④ 成竜橋 下部工（橋脚）
⑤ 成竜橋 下部工（橋台・橋脚）
⑥ 第二遊水地 排水門
⑦ 第三遊水地 排水門
⑧ 玉城橋 下部工（橋脚）
⑨ 玉城橋 下部工（橋台・橋脚）
⑩ 矢吹小野線（(仮称) 泉郷川橋）
⑪ 周辺整備（地内掘削）
⑫ 中沖樋門
⑬ 地内掘削
⑭ 阿由里川
⑮ 埋蔵文化財調査（鏡石町）
⑯ 埋蔵文化財調査（矢吹町）





①鈴川橋 A1橋台・A2橋台（コンクリート打設完了）





⑯埋蔵文化財調査状況（矢吹町）

上流遊水地群整備　概略工程

○阿武隈川緊急治水対策プロジェクトに基づき、概ね15年間で治水対策を実施

概略工程		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度
測量	・遊水地範囲検討	→	→	→	→	→	→	→							
事業計画の検討	・計画規模	→													
調査・設計	・地質調査など ・遊水地関係施設	→	→	→	→	→	→	→							
用地調査	・測量 ・土地価格の算定			→	→	→	→	→	→	→					
用地協議	・用地協議、補償				→	→	→	→	→	→	→				
工事	（埋蔵文化財調査含む）					→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

注）上記プロジェクト工程については、今後の調査状況等により変更する可能性もあります。

福島県における流域治水の取組

近年、令和元年東日本台風など、これまでに経験したことがないような豪雨が毎年のように発生し、全国各地で甚大な水害や土砂災害をもたらしています。

今後、気候変動により更なる水害の激甚化・頻発化が予測されていることを踏まえ、これまでの河川管理者等の取組に加え、**流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる対策「流域治水」**への転換を進めていきます。












令和元年東日本台風被害状況
郡山市若葉町交差点
（出典：国土地理院撮影 撮影日令和元年10月13日）

※ 写真はすべて令和元年東日本台風による被害の状況

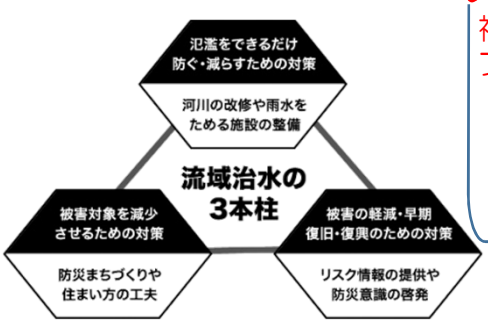
福島県における流域治水の取組

「流域治水」とは？

流域治水

流域治水は、河川の護岸や堤防を整備するなどの行政の取り組みに加えて、地域の企業や住民の皆さまの協力を得ながら、一緒に水災害に備えていこうという考え方です。

その対策は、**①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**の３つの柱となります。

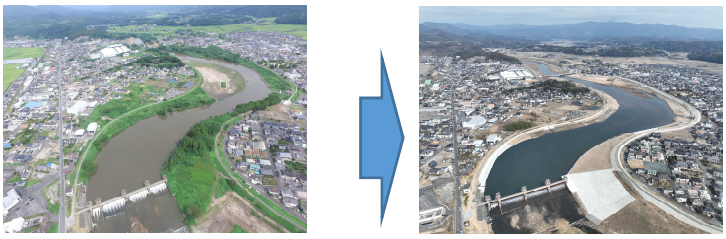


CHECK!
福島県流域治水プロジェクト！

流域治水の取組①

河川整備の推進

福島県緊急水災害対策プロジェクトに基づき、河川の断面を広げる堤防の整備や河道の掘削など、安全に川の水を流すための対策を集中的に進めています。



夏井川改良復旧事業状況（いわき市）

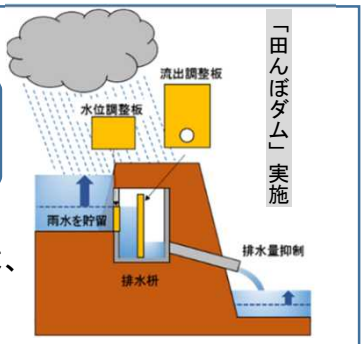
流域治水の取組②

田んぼダム

田んぼダムは、畦畔の補強や水田の排水口に流出を抑える器具などを設置することで、水田に降った雨水を一時的に貯留し、下流での急激な水位上昇を抑える取り組みです。

CHECK!
田んぼダムとは？

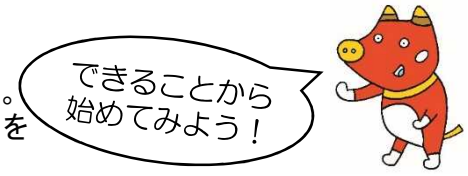
田んぼダムを詳しく知りたい、田んぼダムに取り組んでみたい方は、市町村や土地改良区、最寄りの県農林事務所に問い合わせください。



農林水産省「田んぼダム」の手引き

みんなで取り組もう！流域治水！

流域治水には、みなさんができることがたくさんあります。大雨時に水の使用を工夫する、自宅の近くを流れる川のリスクを知るなども流域治水の大事な取り組みです。



●庭に雨がしみ込むように砂利を敷き、花だんを作りましょう。



●家庭用の雨水タンクを設置し、庭の水まきに使いましょう。



●雨の日にバケツを庭に出して水を貯めましょう。



●大雨の時はお風呂や洗濯の水を流さないようにしましょう。



●自分だけの避難行動計画「マイ避難シート」を作りましょう。

自分の命と、大切な人の命を守るために
ふくしま マイ避難シート

●ハザードマップにより身近な川のリスクを確認しましょう。

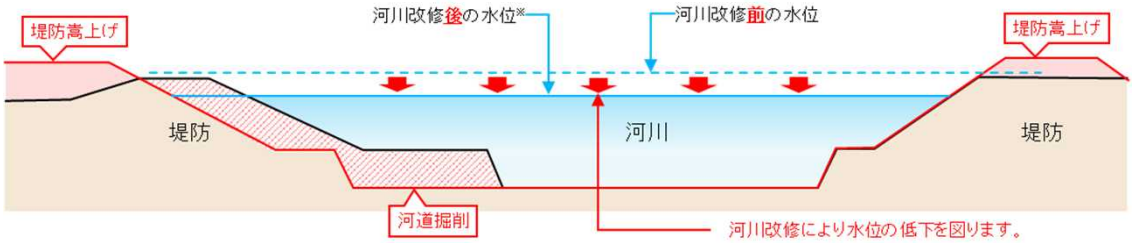
CHECK!
調べてみよう！
ハザードマップポータルサイト

福島県における流域治水の取組
～ハード・ソフト対策の事例～

【ハード対策】
河川の流下能力を向上させ、早期の浸水被害の軽減を図るため、河道掘削や堤防嵩上げなどの河川改修を進めています。



逢瀬川（郡山市）における河川改修の進捗の様子



【ソフト対策】
危機管理型水位計※１や簡易型河川監視カメラ※２の設置を進めています。

※１　水位が上昇した時に水位情報を提供する水位計で、川の水位が上昇した時のみ、10分毎の観測データが送られてきて、「川の防災情報」でリアルタイムに公開されます。

※２　電源・通信ケーブルの確保不要で容易に設置可能であり、ズームや首振り機能を削除するなど機能を限定し、設置・ランニングコストを低減させたカメラです。 5分間隔で静止画をデータ送信し、上記のウェブサイトでリアルタイムに公開されます。



設置した簡易型河川監視カメラの例
＜濁川（鳥谷野橋）・福島市＞



スマートフォンによる
河川監視カメラ、河川水位の表示例

二次元コードから河川監視カメラ・水位の情報が確認できます

川の防災情報
＜国土交通省＞

河川流域総合情報システム
＜福島県＞

福島県の気候変動～気温の上昇とその影響～

福島地方気象台HP
福島県の気候変動 検索

気温の上昇

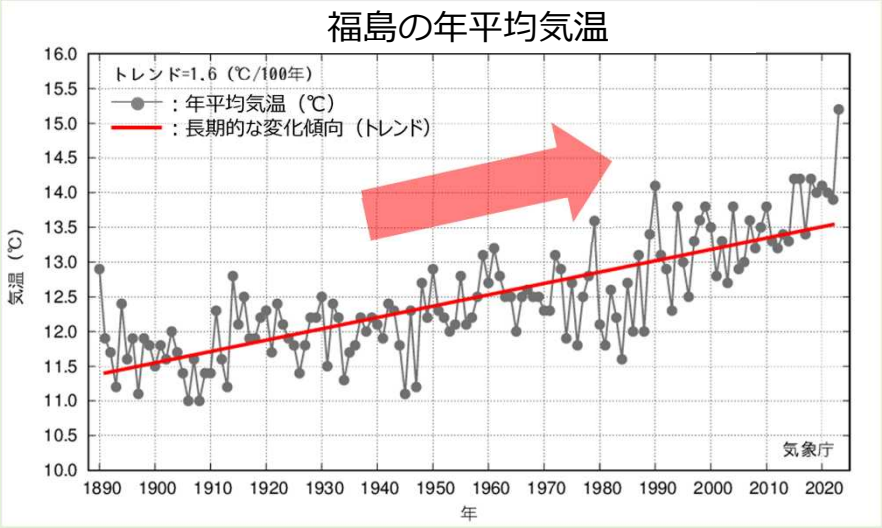
これまでの変化

100年あたり
1.6℃上昇※

※右のグラフのデータから算出した
100年あたりの平均的な上昇率です。

最新の変化傾向は、
A-PLAT「気象観測データの長期変化の傾向」をご覧ください。

https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html



21世紀末の予測

熱中症等のリスク増加

福島県の**年平均気温**は、20世紀末と比べて、
2℃上昇シナリオで約**1.4℃**、4℃上昇シナリオで約**4.6℃**上昇

年間猛暑日日数	1日	**約3日**	/ **約15日**
年間熱帯夜日数	0日	**約2日**	/ **約24日**

日数は左から、福島県平均の20世紀末の観測値、21世紀末（2℃ / 4℃上昇シナリオ）の予測値

猛暑日は日最高気温が35℃以上の日です。
熱帯夜は夜間の最低気温が25℃以上の日を指しますが、ここでは便宜上、日最低気温が25℃以上の日を熱帯夜として扱っています。

雪の減少

21世紀末の予測

東北日本海側（会津を含む）の
年最深積雪は、20世紀末と比べて、
2℃上昇シナリオでは約**31%**、
4℃上昇シナリオでは約**68%**減少

海面水温の上昇

21世紀末の予測

関東の東（福島県沖を含む）の
年平均海面水温は、20世紀末と比べて、
4℃上昇シナリオでは約**3.58℃**上昇
2℃上昇シナリオでは変化傾向は
見られません

海面水温の上昇について、関東の東が示す海域は、気象庁ホームページ「海面水温の長期変化傾向(日本近海)」を参照ください。

福島県の気候変動～極端な大雨のリスク増大～

福島地方気象台HP
福島県の気候変動 検索

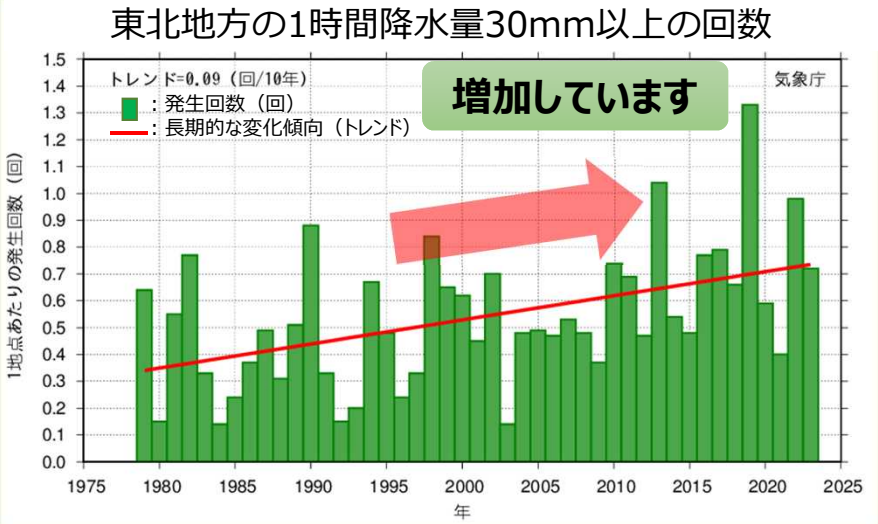
大雨の増加

これまでの変化

甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風の大雨には、地球温暖化が影響したという解析結果もあります。

最新の変化傾向は、A-PLAT「気象観測データの長期変化の傾向」をご覧ください。

https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html



21世紀末の予測

傘をさしていてもぬれるような降り方です

東北地方の**1時間降水量30mm以上の年間発生回数**は、20世紀末と比べて、
2℃上昇シナリオでは約**1.7倍**、4℃上昇シナリオでは約**3.1倍**に増加

⚠ 土砂災害や洪水等の災害リスク増加

温暖化の程度に応じた予測

各シナリオにおけるおおよその年代
2℃上昇シナリオ（SSP1-2.6）
4℃上昇シナリオ（SSP5-8.5）

20世紀末には100年に一回しか起こらなかった大雨※1が**より頻繁に**

東北地方の予測	温暖化の程度	1.5℃上昇	2℃上昇	4℃上昇
	20世紀末	2023-2042年頃 2018-2037年頃	※2 2032-2051年頃	2075-2094年頃
100年当たりの発生頻度	1回	約1.9回	**約2.2回**	**約4.8回**

観測データ※3による推定では、100年に一回の大雨（日降水量）は、福島では約198mmです。温暖化が進むと、こうした大雨がより頻繁に発生します。

※1 ここでは日降水量に基づく結果を示します。
※2 2031-2050年頃に2℃上昇となる可能性はあります。
※3 1976-2023年のうち利用可能な観測データです。

詳しい情報は、気象庁ホームページ「極端現象発生頻度マップ」をご覧ください。

知ってください！「線状降水帯」のこと

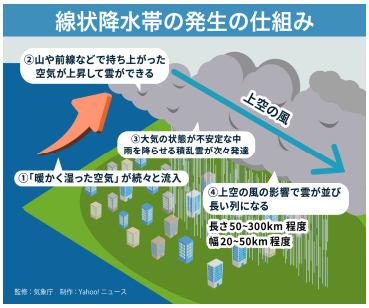
1. 線状降水帯とは？

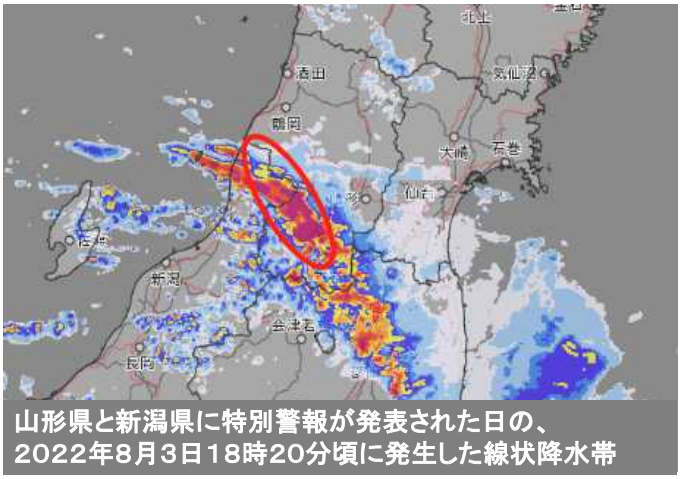
・長さ50～300km,幅20～50km位の**発達した雨雲の帯**で数時間にわたってほぼ**同じ場所**に**激しい雨**を降らせ続けます。

・線状降水帯による顕著な大雨によって、毎年のように、**甚大な被害**が発生しています。

・**発生メカニズム**に**未解明**な点も多く、**予測が難しい現象**です。

気象庁では、予測精度の向上に向けて努力しています。





山形県と新潟県に特別警報が発表された日の、2022年8月3日18時20分頃に発生した線状降水帯

2. 線状降水帯で何が起こる？

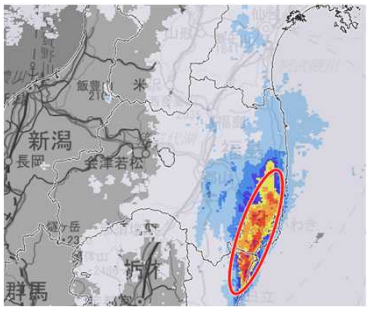
線状降水帯により**同じ場所**で**激しい雨**が降り続くことで、**山崩れやがけ崩れ、低い土地の浸水や河川の氾濫**が発生し、時に**命に危険が迫ります**。

線状降水帯が発生した大雨事例

2014年8月	**広島土砂災害**（平成26年8月豪雨） 同時多発的に土石流が発生 死者74人 （出典：平成26年版 消防白書）	 土砂災害
2015年9月	**平成27年9月関東・東北豪雨** 茨城・鬼怒川が決壊・土砂災害 死者8人 （出典：平成27年版 消防白書）	
2017年7月	**平成29年7月九州北部豪雨** 山地部の中小河川の氾濫・土砂災害 死者・行方不明者41人 （出典：平成29年版 消防白書）	 中小河川洪水
2018年7月	**西日本豪雨**（平成30年7月豪雨） 各地で河川の氾濫や土砂災害 死者・行方不明者232人 （出典：平成30年版 消防白書）	
2020年7月	**令和2年7月豪雨** 熊本・球磨川の氾濫・土砂災害 死者・行方不明者86人 （出典：令和2年版 消防白書）	 洪水

写真提供：気象庁　監修：気象庁　制作：Yahoo! ニュース

令和5年9月8日から9日にかけて、台風第13号および台風第13号から変わった熱帯低気圧の影響により、**福島県**において**線状降水帯**が発生し、浜通り地方のいわき市や南相馬市で大雨により**洪水被害**が発生しました。



令和5年9月8日21時30分の３時間解析雨量（赤楕円は実況での線状降水帯を示す）


いわき市での被害（2枚とも藤原川）
写真は2枚とも福島県提供

3. どうやって気をつける？

線状降水帯に関する情報

Yahoo! ニュース オリジナル　監修：気象庁

情報の入手方法

気象庁HP　　報道や気象キャスター

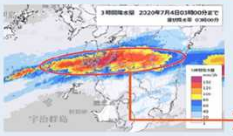
線状降水帯による大雨の可能性

半日程度前と、今後３時間以内の発生の危険性が高まった際に、気象庁が発表

「○○県で、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります」

※現在の技術では予測が難しく、予測がなくとも発生する場合もあります。

線状降水帯により大雨が発生


気象庁が「気象防災速報（線状降水帯発生）」を発表

「大雨災害発生の危険度が急激に高まっています」

線状降水帯

これらの情報と合わせて

✔市町村が発令する避難情報　✔キキクル

などを確認しよう。大雨への備え、適切な避難行動を。

線状降水帯から、**自分や大切な人の命を守る**ために、

・上に紹介している**情報**を**チェック**し、**お住まいの場所**に応じた**事前の備え**を行いましょう。

・線状降水帯が発生したら、**キキクル**や**避難情報**などを確認し、**命を守るための行動**をとってください。

◂気象防災速報・気象解説情報等　　◂キキクル

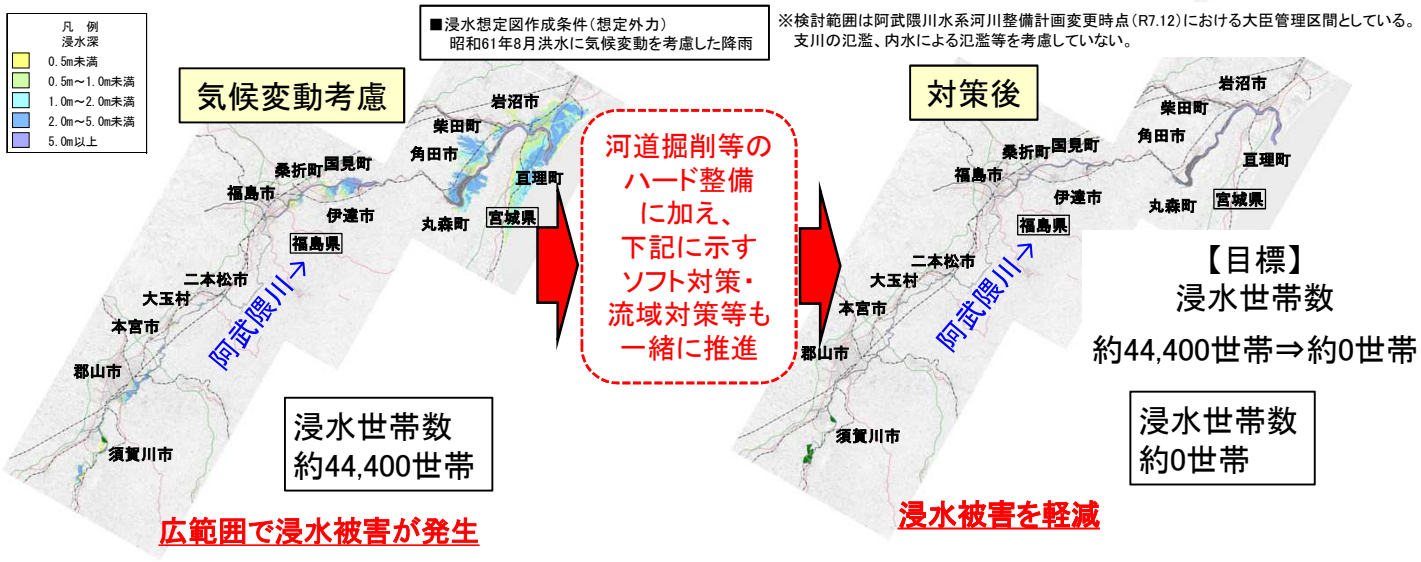
気象庁　福島地方気象台
Japan Meteorological Agency
Fukushima Meteorological Office

流域治水プロジェクト2.0

○河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換を進めるため、流域の市町村や都道府県、民間企業等が実施する治水対策の全体像について国、流域自治体、企業等からなる流域治水協議会にて議論を進め、令和3年3月30日に全国109全ての一級水系などにて「流域治水プロジェクト」を策定、全国一斉に公表しました。

○気候変動の影響により、気温が仮に2℃の上昇に抑えられたとしても、2040年頃には降雨量が1．1倍、流量が1．2倍に増加すると見込まれ、洪水発生頻度が2倍になると想定されています。このことを踏まえ、流域治水の取組を更に加速化・深化させ、地域の暮らしと生業を守るため、令和6年3月29日に「流域治水プロジェクト2.0」に更新しました。

気候変動に伴う水害リスクの増大（阿武隈川流域）



水害リスクを踏まえた主な対策（阿武隈川流域）

○令和元年東日本台風では観測史上最大の洪水により、阿武隈川流域に甚大な被害が発生したことを踏まえ、以下の取り組みを一層推進していくものとし、更に国管理河川においては、気候変動（2℃上昇時）下でも目標とする治水安全度を維持するため、現河川整備計画目標の昭和61年8月洪水の降雨量増加（雨量1.1倍）を考慮した洪水が発生しても外水氾濫による床上浸水等重大な浸水被害を防止するとともに、水田等農地についても被害の軽減に努める。また、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。

：氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
：被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
：被害対象を減少させるための対策



流域治水の取り組み

伊達市

○水防・避難に関する取組

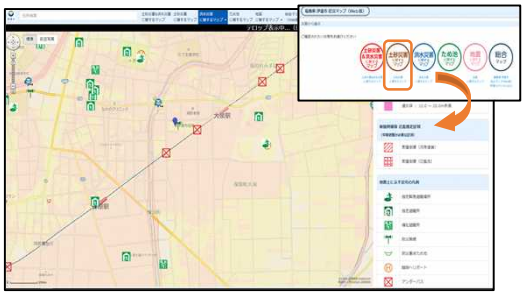
排水ポンプ車の操作訓練を実施

● 市で保有する排水ポンプ車による操作訓練を、福島河川国道事務所、実際の災害時にポンプ車を運用する市職員および委託業者合同で年に1回、出水期前に実施している。今後も継続して実施していく予定。



Webハザードマップの運用

● 市のHPでWebハザードマップを公開しており、自宅にいなくとも手軽かつ迅速に市内のハザードマップを確認できる。WEBは最新版に随時更新しており、住所検索も可能。



ワンコイン浸水センサの設置

● 浸水状況をリアルタイムで把握するため、過去に浸水被害があった阿武隈急行線のガード下や公共施設、阿武隈川の樋門など**市内22箇所に浸水センサを設置し**、有効性を検証する実証実験を実施中。市のHPから確認できる。





伊達市公式アプリ だてなびのご案内

避難情報や気象情報、行政情報をお知らせする無料アプリです。ぜひご活用ください！

▼ダウンロードはこちら

iPhone　Android

○気候変動に対する市全体の浸水対策（福島市総合治水計画）

福島市

背景と課題

● 気候変動に伴い、ゲリラ豪雨等の大雨による浸水被害のリスクが増加

● 福島市では、2050年頃までに「**1時間当たり50mm**」の降雨への対応が必要

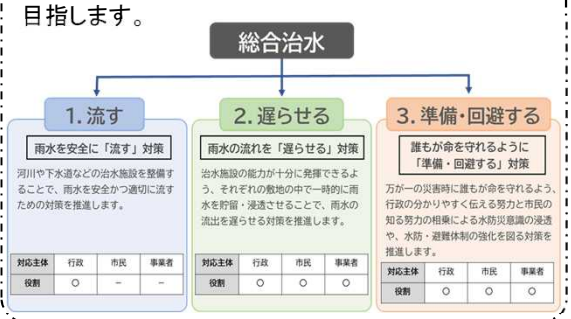




行政の対策に加えて、市民・事業者も**“一緒に考え共創し対策を行うこと”**が重要です

今後の方針

「福島市総合治水計画」では、**行政・市民・事業者が一緒に取り組む“3つの対策”**を、まとめました。**それぞれが自分の役割を理解し共創して対策を進める**ことで、浸水被害を予防・軽減することを目指します。



総合治水の対策

1.「流す」対策

河川整備





2.「遅らせる」対策

雨水タンク



田んぼダム



※遅らせるとは？

ゲリラ豪雨が増えると、雨水が水路に一気に流れ込み溢れることで浸水します。雨水を貯めたり浸透させると、排水する時間を遅らせることができ、浸水被害を防ぐことに繋がります

3.「準備・回避する」対策

防災訓練



止水板の準備





計画をもっと詳しく知りたいならココ！

流域治水の取り組み

二本松市

○ハザードマップの見直し

総合ハザードマップを一部改訂しました。
【主な改訂内容】
・油井川、杉田川等の浸水想定区域等を反映
・土砂災害警戒区域の指定状況の更新
・ダム、ため池ハザードマップ　など



○想定浸水深の表示

洪水ハザードマップの想定浸水深を街なかの電柱等に表示する『まるごとまちごとハザードマップ事業』として、令和４年度に、市内約100か所に設置しました。



○内水対策強化、小型排水ポンプ配置

従来の設置式の排水ポンプに加え、新たに可搬式の小型排水ポンプを導入しました。



○防災アプリの導入

市内の緊急情報、火災情報、避難所開設情報など防災ラジオと同内容の配信のほか避難所の位置や避難所の混雑状況等も確認可能な防災アプリを令和4年4月に導入しました。



○デジタル防災行政無線システム導入

○個別受信機
・FM・AMラジオ、ライト機能付
・難聴者への対応で文字表示機能付き受信機もあり。
○屋外スピーカー
・市内94か所に設置
・停電時も約72時間稼働可能



○利水ダムの洪水調節、田んぼダムによる流出抑制、ため池の治水活用

三ツ森溜池（利水ダム）の貯留水量を９月から10月にかけて下げることで、令和元年10月の台風19号の際には、災害時における貯留施設の役割を担うことができた。
今後も本村流域における**「ため池の対策」**（貯留対策）を検討していく。

大玉村

○防災上の課題

●「ため池の対策」の実効性を高めていく
→　出来ることを積み重ねていく

○防災対策の取組の方向性

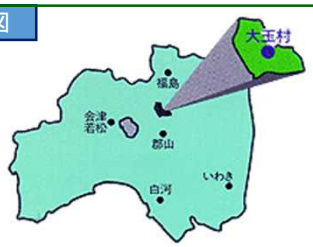
●利水ダム（三ツ森溜池）の洪水調節
→　阿武隈川水系（阿武隈川上流）
　　治水協定の締結　R2．5．29
　※水位低下の期間　９月１日～10月31日
　　水位低下させた状態からの確保可能な容量 34万㎥

●田んぼダムによる流出抑制（大玉土地改良区の受益地1,193ha）
→　約300haに排水桝（堰板）を設置済

●ため池の治水活用
→　ため池の保全（防災重点ため池の改修を重点的に）

●その他
　※自主防災組織の組織化と地区単位での防災訓練の実施
　※災対本部の効果的な情報発信
→　情報発信のタイミング、
　　全世帯に設置してある防災行政無線・戸別受信機を有効に活用

位置図



大玉村は、名峰「安達太良山」から広がる雄大な扇状地にある。安達太良山に水源を発する杉田川、百日川、安達太良川、七瀬川（いずれも県管理一級河川）が村内を流れる。

三ツ森溜池（利水ダム）
管理者　大玉土地改良区



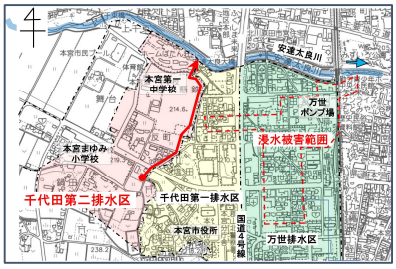
流域治水の取り組み

本宮市

○水防・避難等に関する取組

○千代田第二排水区雨水整備（令和8年度完了予定）

●本宮市万世・千代田地区の集中豪雨等による浸水被害の軽減を目的として、上流部の雨水管渠を整備。
　下流地区は、集中豪雨や局地的大雨によりたびたび浸水被害に見舞われており、対策を進めている。



○給水車の追加配備

●断水時であっても飲料水を届けられるよう、給水車2台を配備している。

◎配備車両概要
　積載水量
　・・・ 2,800 L(1台)
　・・・ 2,000 L(1台)



○地域防災力の強化

●防災に関する高い知識と経験を有する者として内閣府の認定を受けた地域防災マネージャーを令和5年5月から配置

◆地域や自主防災組織での出前講座などを通して防災意識の普及や自助・共助力を強化
◆防災訓練等の実施や災害対応のアドバイスなど公助力の向上、市の防災体制の強化を図る
◆市の広報紙「広報もとみや」に、防災に関する記事を掲載し、防災情報を発信



「広報もとみや」の防災コーナー

○事前公助の取組強化・地域防災力の向上



○マイ避難・防災教育の推進

●マイ避難の推進による自助力強化
◆地域防災マネージャーが各行政区、自主防災組織に出向き、マイ避難作成の出前講座を実施



●学校教育との連携
◆市内小中学校と連携し防災教育を実施。防災の知識を備え高い視座を持った子供の育成を図る



郡山市

○郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン　2014（平成26）～2022（令和4）年度

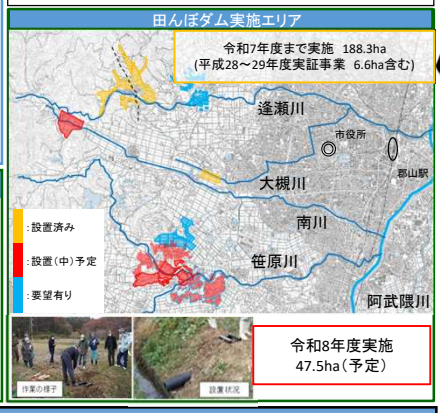
○河川事業（国・県・市）と下水道事業が連携し、74mm/hの降雨に対して床上浸水を軽減する事業を実施。（平成26年9月9日 国の「100mm/h安心プラン」登録）





○農地を活用した取り組み

○田んぼダム実施範囲は、2025（令和7）年度末までに188.3haに排水桝を設置。2026（令和8年）年度は、47.5haに設置予定。

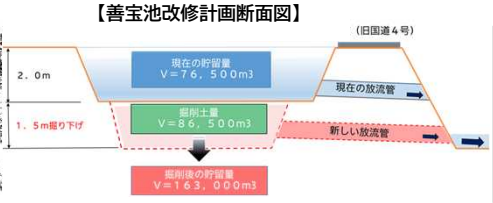


○流域対策（農業用ため池を雨水貯留施設に改築）

○準用河川愛宕川流域上流の浸水被害を軽減するため、市に移管された善宝池（農業用ため池）を活用し、雨水貯留施設に改築する事業を実施。



【善宝池改修計画断面図】



【浸水被害状況】



流域治水の取り組み

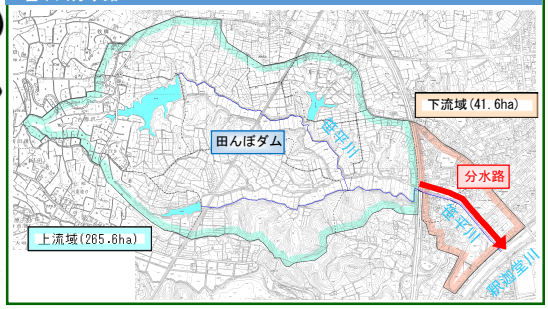
須賀川市

○笹平川総合流域防災事業【分水路整備】

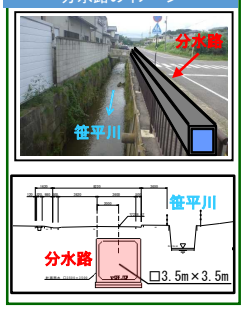
2017（平成29）～2026（令和8）度

○45mm/hの計画降雨規模による上流域からの流出量32.5㎥/sを釈迦堂川に排水する分水路を整備し、下流域の浸水被害低減を図る事業を実施。

笹平川分水路　（整備計画延長L=643m）



分水路のイメージ



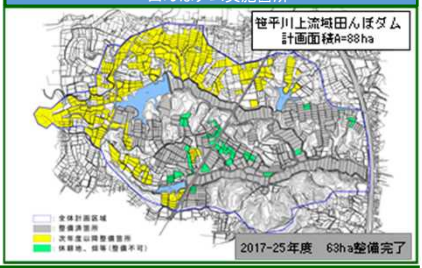
○農地を活用した取り組み

○笹平川上流域の田んぼダムは、2025（令和7）年度末までに63haが整備完了。
○2026（令和8）年度は、7haを整備予定。

田んぼダム（排水桝設置状況写真）



田んぼダム実施箇所



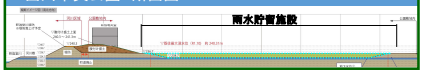
○都市構造再編集中支援事業【西川中央公園再整備】

○舘取町地区の浸水被害低減と避難時間確保のため、内水排水処理施設（ポンプゲート）と内水を貯留することができる公園の再整備を実施。

西川中央公園　全景写真



西川中央公園　断面図



西川中央公園　雨水貯留施設



貯められる量25,000㎥（25mプール42杯分）満水までの時間約80分

西川中央公園　内水排水処理施設（ポンプゲート）



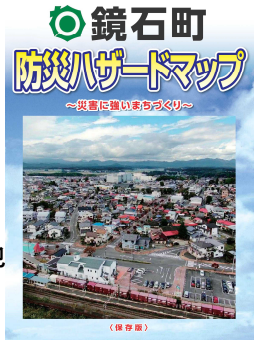
下水道事業により、計画降雨規模45mm/hに対応する内水排水処理施設（ポンプゲート）を整備

鏡石町

○鏡石町の主な防災対策等の取り組み

○令和元年東日本台風による鏡石町の被害
- ・浸水面積　153ha
- ・被災者　86世帯、281人
- ・人的被害　死者1人、軽症者1人
- ・建物被害　203棟
- ・道路関係　20,280千円
- ・商工業関係　415,400千円
- ・農業関係　963,333千円（概算）

○鏡石町防災ハザードマップの見直し



・令和元年10月の台風19号において、町内で浸水被害が発生し、住宅や農地、農業用施設等に甚大な被害が発生したため、浸水想定区域を見直し、防災重点ため池（高野池・諏訪池・岡ノ内池1）のため池ハザードマップの内容を反映した防災ハザードマップの改訂を行った。（令和3年度）

○実績浸水深看板の設置



実績浸水深看板

・令和元年東日本台風で浸水被害を受けた区域内の電柱等に、実績浸水深看板を設置した。（令和2年度）

○水害に対応した防災訓練の実施



・地元水防団（消防団）に救助用ボートを配置、その取扱いについて、消防本部の協力を得ながら訓練を実施している。

○普通河川諏訪池川の浚渫

・河道における流下能力確保のため、普通河川諏訪池川の浚渫に向けた測量設計業務を実施した。今後、浚渫工事の実施を予定している。
（施工延長L=693m（鈴川合流地点～諏訪池洪水吐までの区間））

石町

流域治水の取り組み

玉川村

○流域治水の推進に向けて

流域治水においては、一人ひとりが水害リスクを「自分ごと」として捉え、主体的に行動することが必要とされています。阿武隈川では現在、国による遊水地群（玉川村、鏡石町及び矢吹町にまたがる約350ha）の整備が進められており、流域全体でこの事業の理解を深めていくことも「自分ごと」の1つとなります。

流域治水の自分ごと化

- ステップ❶ 知る：阿武隈川の水害や遊水地の整備について知る
- ステップ❷ 自分ごととして捉える：水害や遊水地の整備が生活とどう関わるか考える
- ステップ❸ 行動する：流域全体の安全度が向上するよう、取組を広げる


遊水地とは…



遊水地 → 洪水をためる → 下流の川の水位が下がる → 浸水被害が軽減する


流域は1つ

遊水地クイズ

Q1 3つの遊水地を囲む堤防の長さを全て合わせると何km？
約8km / 約12km / 約16km

Q2 遊水地は,どこを洪水被害から守るために整備されるか？
遊水地内 / 玉川村 / 阿武隈川流域

Q3 遊水地は,流域における何を防ぐためにつくられるか？
堤防からの越水 / 内水氾濫 / 水不足

Q4 国内最大級の渡良瀬遊水地で近年問題になっていることは何？
オーバーツーリズム / イノシシの増加 / Wi-fi環境

【答え】
Q1 約16km
Q2 阿武隈川流域
Q3 堤防からの越水
Q4 イノシシの増加

矢吹町

○水防・避難に関するこれまでの取組

過去の災害における被害状況（令和元年東日本台風）

三城目地区浸水状況

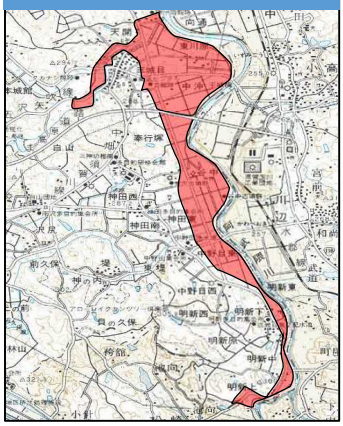




位置図



浸水ハザードマップの見直し



○矢吹町防災マップ（洪水ハザードマップ）の見直し

●令和元年10月の台風19号においては、既存の矢吹町防災マップの浸水想定エリアを超えて、約120haの浸水被害が発生し、住宅や農地、農業用施設等に甚大な被害が発生したため、浸水ハザードマップの早期見直し、令和3年度に更新しました。

○地域における防災の担い手となる防災士の養成

●災害に強いまちづくりに向け、「地域の防災リーダー」となる防災士の資格を取得する方に対し、資格取得に要する費用の助成を行い、地域防災の担い手の育成を支援します。

流域治水の取り組み

白河市

○河川対策（護岸改修・河道掘削）

気候変動の影響等により激甚な災害が頻発しています。激甚化・頻発化する自然災害から市民の暮らしを守り、安全で安心して生活できる居住環境を実現するため、河川の減災防災対策を推進します。

位置図







【護岸改修（堤防の強化）】
○緊急自然災害防止対策事業（河川）
令和元年度の台風19号により準用・普通河川において甚大な被害が発生しました。被災箇所の多くが浸食を受け崩壊が起きた天然護岸であることから、氾濫のリスクを低減するため、堤防の強化を実施しています。
・令和3～6年度実施
準用河川 原瀬川、あいそ川、滑里川、赤仁田川、湯沢川
普通河川 千沢川、金堀川、坂下川、大沢川、石崎川 （計10河川）

【河道掘削（流下断面の確保）】
○緊急浚渫推進事業（河川）
堆積した土砂や繁茂した樹木等により河川の流下断面が阻害されていることから、堆積土砂等を撤去し、河川の災害を軽減します。
・令和3～6年度実施
準用河川 原瀬川、あいそ川、赤仁田川、滑里川、湯沢川、西石崎川、泉川
普通河川 石阿弥陀川、石崎川、樋ノ口川、大沢川、金堀川、桑ヶ作川、清水川、白川、坂下川、御館川、宮沢川、千沢川（計19河川）

○農業用施設における防災・減災対策

位置図



近年頻発する集中豪雨や台風等による農業用施設の被害を未然に防ぐため、「緊急浚渫推進事業」および「緊急自然災害防止対策事業」を活用し、農業用ため池や農業用排水路などの防災・減災対策に積極的に取り組んでいます。

◆緊急浚渫推進事業（農業用ため池）
（事業実施期間：令和3年度から継続）
防災重点農業用ため池（決壊時に人家や公共施設に被害を及ぼす恐れのあるため池）について、豪雨等による農業用ため池の決壊・越水等の災害リスクを軽減するため、堆積土砂を撤去し、ため池の貯水機能と防災機能の回復を図ります。
【令和6年度実績】
赤番沢下ノ池、渋川池、夏梨池NO.2、庭渡池、前田池、山田池、前沢池、形見新池、三ツ池（中池）、山口池、夏梨池No1、赤番沢上ノ池、一里段池、山田池、後田池（15池）

後田池（令和6年度実施）


対策前


対策後

◆緊急自然災害防止対策事業（農業用施設）
（事業実施期間：令和5年度から継続）
農業用ため池については、堆積した土砂を排出するための土砂吐きゲートの改修や堤体の補強を実施し、治水機能の強化を図ります。
また、農業用排水路については、老朽化により排水不良を生じている水路を改修することで、豪雨時における越水の発生を抑制し、農地や農道などの公共施設等における冠水被害の軽減を図ります。
【令和6年度実績】
大信下小屋沢入地区（実施中）、大信下小屋日和田前地区（実施中）

◆緊急浚渫推進事業（農業用排水路）
（事業実施期間：令和7年度から新規）
農業用排水路について、豪雨時における越水や農地・農道などの公共施設等の冠水被害の軽減するため、堆積した土砂や繁茂した植生などを撤去し、排水機能の回復を図ります。

○防災対策（自助・共助・公助への取り組み）

【自助】白河市防災マップ　：令和5年3月、防災マップを改訂しました。
【共助】自主防災組織への支援：令和6年11月に、コミュニティ助成事業（宝くじ社会貢献広報事業）を活用し、自主防災組織へ防災資機材を助成しました。
【公助】防災ラジオの貸与　：防災無線のデジタル化に伴い、令和2年10月より防災ラジオの貸与をはじめました。

【自助】防災マップ改訂
河川の浸水想定区域などの見直しが行われたことから、令和5年3月に防災マップを改訂しました。
河岸侵食や氾濫流の項目を追加し、一冊で市内全域のハザード情報や避難場所を確認することができるほか、防災に関する情報をイラストなどでわかりやすく掲載しています。



【共助】自主防災組織への支援
組織立ち上げ、防災資機材の助成や総合防災訓練への参加など、活動を促進する取組を通じて、自主防災組織の機能強化と地域防災力の向上を図っています。


（防災資機材交付式の様子）

【公助】防災ラジオの貸与
防災ラジオの貸与により、市内全域を防災無線で網羅出来るようになりました。
災害などの緊急情報をいち早く受信することができ、悪天候などで屋外スピーカーの放送が聞き取りにくい場合でも、自宅にて防災情報を受け取ることができます。
（1台3,000円）



○ワンコイン浸水センサの設置（令和7年6月）

頻発化・激甚化する豪雨災害に対し、官民連携でリアルタイムに浸水範囲や浸水深を把握できるワンコイン浸水センサ実証実験（国土交通省が実施）に参加し、迅速な交通規制の判断や災害対応につなげます。

アンダーパス設置箇所







雨水幹線放流口設置箇所（内水対策）

○防災対策の取組みの状況

令和元年10月の台風19号の被害については、河川の増水による道路の路面崩落や法面等の被害があり、復旧・修繕工事が行われている箇所もある。町の住家等への被害としては、大雨による土砂災害が主であり、雨量とそれらの被害が発生するタイミング等を見極めながら、住民へ情報発信を行い、「公助」だけでなく「自助」「共助」の取組みを推進し、自主的な行動を促していく必要がある。

三春町

位置図

福島県三春町



河川は、町の最北部を流れる移川、南部を貫流する大滝根川があり、これに注ぐ渓流が多い。さらに、八島川、桜川が町の中央部を流れ、その下流は阿武隈川に注いでいる。

過去の災害における被害状況

平成 5年9月豪雨　床上浸水　8件　床下浸水109件
平成10年8月豪雨　床上浸水 19件　床下浸水 79件
　　住宅被害340件
令和元年10月豪雨　床上浸水 4件　床下浸水　2件
（台風19号）





※台風19号による国道288号線被害状況（被害状況：左　復旧状況：右）

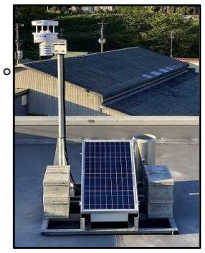
○防災ハザードマップの配布

各種ハザードマップを一冊にまとめた三春町防災ハザードマップ2023を全戸に配布した。
防災ハザードマップには各種ハザードだけではなく災害から身を守るための知識や避難行動ガイドなどの情報を掲載している。



○地域防災リーダー「防災士」の育成

平常時における自主防災組織の訓練や、非常時における地域の応急対策活動の中核となる防災士を育成するため、町独自で養成講座を開催した。
現在、約７０名が防災士として登録を行っている。



○情報取得の強化

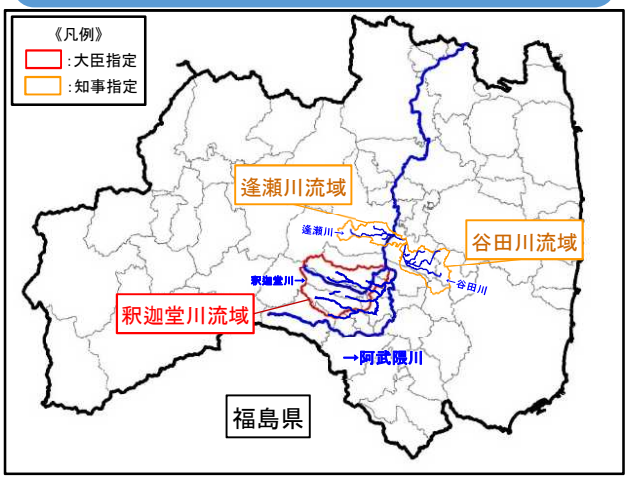
防災行動判断の一助とするため、町独自で小型気象計を町内の２ヶ所に設置した。
観測情報は、ウェブサイトやスマートフォンアプリＰＯＴＥＫＡから町民の閲覧を可能としている。

「流域治水」の本格的実践 ～特定都市河川の指定～

○「流域治水」の本格的な実践に向けて、令和3年11月1日に全面施行された流域治水関連法の中核をなす特定都市河川浸水被害対策法に基づき、阿武隈川においては、釈迦堂川、谷田川、逢瀬川、小田川、尾袋川を特定都市河川へ指定しています。

○特定都市河川への指定を踏まえ、河川管理者・流域の都道府県及び市町村の長・下水道管理者等からなる流域水害対策協議会を組織しており、今後、河道掘削等のハード整備の加速化に加え、流域における貯留・浸透機能の向上、水害リスクを踏まえたまちづくり・住まい方の工夫等の浸水被害対策を流域一体で計画的に進めるための流域水害対策計画の策定に向けた検討・協議を進めていきます。

阿武隈川流域における特定都市河川指定状況



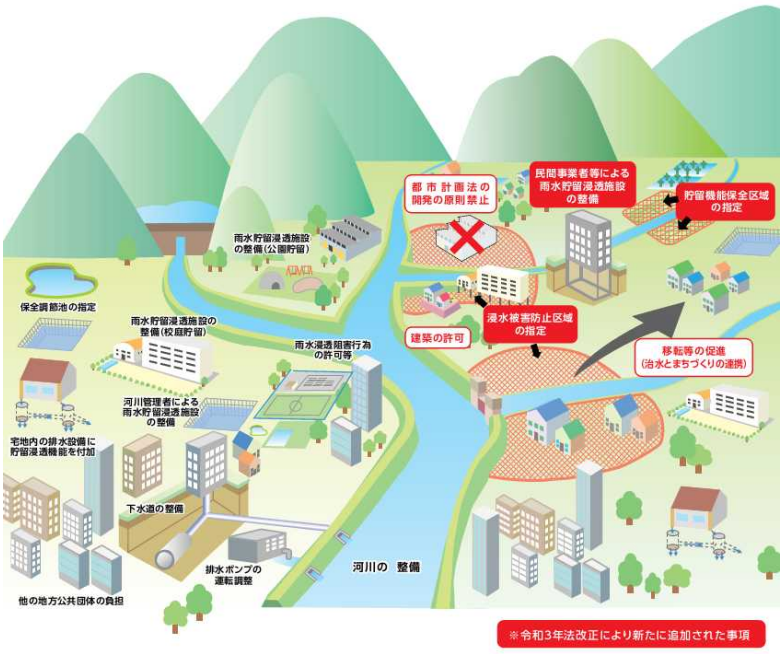


▲釈迦堂川流域水害対策協議会の発足



▲逢瀬川流域・谷田川流域水害対策協議会の発足

特定都市河川浸水被害対策法の全体像



法的枠組みを活用した流域治水の推進

特定都市河川の指定

▼

流域水害対策協議会の設置 計画策定・対策等の検討

構成員：河川管理者、下水道管理者、都道府県、市町村等

▼

流域水害対策計画 策定

洪水・雨水出水により想定される浸水被害に対し、概ね20年～30年の間に実施する取組を定める

計画に基づき、関係者の協働により、「流域治水」を**本格的に実践**

アンケートにご協力お願いします

このたびは巡回パネル展をご覧いただき誠にありがとうございました。
今後の広報活動の参考とするため、パネル展の内容などに関するアンケートを実施しています。
みなさまのご意見ご感想をお聞かせください。

Webアンケートによる回答はこちら！！

○スマートフォンで回答可能

○所要時間　約２分

右のQRコードをスマートフォンでスキャンしてください



緊急治水対策プロジェクトの内容や取り組み状況を紹介しています

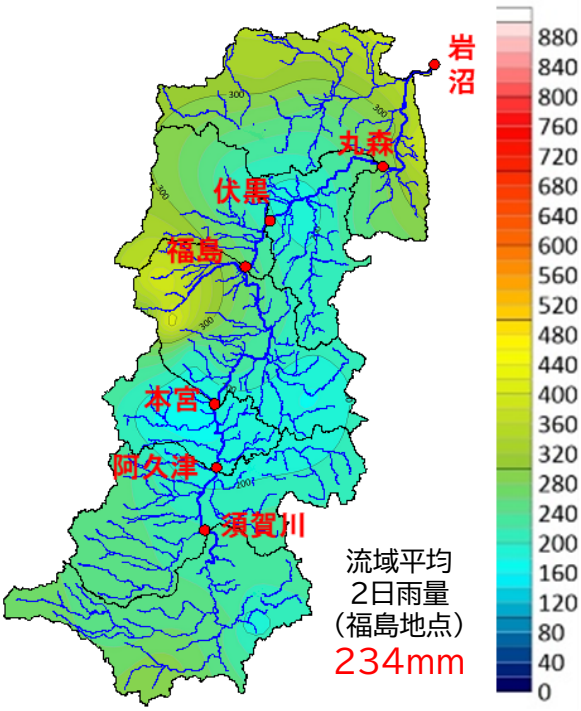
福島河川国道事務所
ホームページ



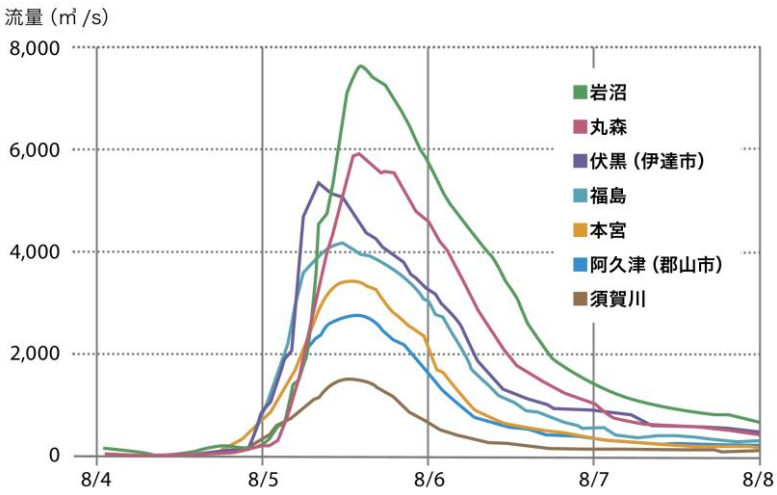
昭和61年８月５日洪水から40年

令和元年東日本台風発生までの「戦後最大の洪水」

○8月4日夜から5日朝にかけて、台風10号から変わった温帯低気圧による豪雨は、流域平均2日雨量（福島地点）で234㎜に達し、記録的大雨となった。
○阿武隈川上流では、広瀬川（伊達市）で2箇所、逢瀬川、谷田川（郡山市）で破堤するなど、福島県内で約1万4千棟の家屋浸水、56棟が全半壊となる（当時）戦後最大の洪水となった。



福島県内では、
約1万4千棟の家屋浸水が発生



4日夜から5日にかけて急激に水位が上昇

【須賀川市】



釈迦堂川合流点付近（須賀川市）


釈迦堂川氾濫状況（須賀川市）


冠水後の中宿橋（須賀川市）

昭和61年8月5日洪水から40年

【郡山市】



谷田川合流点付近（郡山市）


食品工業団地の浸水状況（郡山市）


安原町東側より安原橋を望む（郡山市）


工業団地内に取り残された人達の救助活動（郡山市）

【本宮市】


安達太良川、本宮橋の浸水状況（旧本宮町）


阿武隈川本川の出水状況（旧本宮町）

【二本松市】


安達ヶ原橋より阿武隈川堤内地を望む（旧安達町）


法面崩壊状況（旧安達町）


道路も決壊（旧安達町）

昭和61年８月５日洪水から40年

【福島市】


ボートで救助される住民（福島市南町）


大仏橋（左）と松齢橋（右）（福島市）


泥水に没む車と住宅（福島市下荒子）


本流に削り取られた国道114号（福島市小倉寺）

【伊達市】



広瀬川合流点付近（旧梁川町）


広瀬川合流点破堤状況（旧梁川町）


完全に冠水した広瀬橋（旧梁川町）


広瀬川左岸特殊堤の越流状況（旧梁川町）


雨の中、住民総出で水防活動（旧梁川町）